

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容①】「Modification (変革)を目指した組織的な授業づくりと学級づくりの一体的展開」

↓ 理科の研究授業風景から



↓ 国語の研究授業風景から



◆ 概要 ◆

本校では、改訂生徒指導提要の授業における4視点に沿った授業改善を行ってきました。授業づくりの主な視点は次のとおりです。

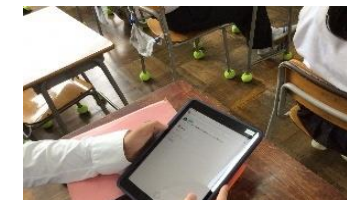
【指導の個別化】 授業内において、個々の得意・不得意、解き方や視点の違い、学力差を踏まえた具体的手だてを行う。(個別最適) / ICTを活用した一人ひとりの習熟に応じた支援 (ICT活用) / 自己肯定感を高めるための、個別の評価やほめ方、アドバイスの工夫 (評価)

【学習の個性化】 単元目標に沿いながら、個々の児童生徒の興味関心を特化させた授業 (興味関心) / 疑問に思ったことを、児童生徒自らが調べながら学習を進める授業 (調べ学習) / 提示した課題に沿って、学習方法を児童生徒自ら選択して進める授業 (探究学習) / ICTを活用した、課題に対して児童生徒が自ら学び方を選び、学びをデザインする授業 (ICT活用)

◆ 実践事例 ◆

年間を通して全員が公開授業を行えるよう計画を立て、事前に作成した「授業デザイン」をもとに異なる教科の教員が相互に学び合うとともに、ICT活用のスキルも向上させてきました。

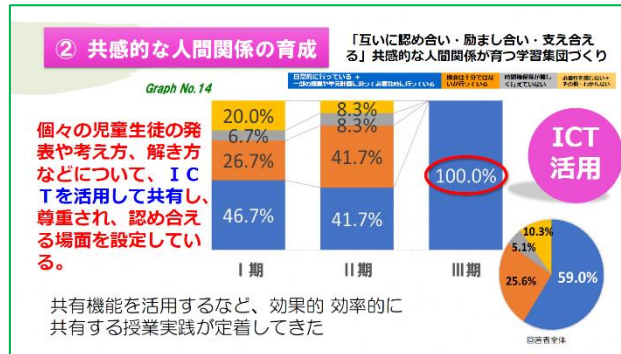
↓ 社会の研究授業風景から



個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 自己存在感の感受
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

改訂生徒指導提要より



校区内小中学校教員対象に実施した4視点全ての具体項目の授業づくりアンケート項目の一例 (京丹後市の保幼小中一貫教育に基づく区分… I期は小1~小4、II期は小5~中1、III期は中2~中3 ※R4.11実施)

【取組内容①】「Modification (変革)を目指した組織的な授業づくりと学級づくりの一体的展開」

◆実践事例◆

さらには、【共感的な人間関係の育成】自分の得意な部分、分かったことを発表し合う機会の設定（発表）／他者の発表や考え方、解き方について、お互いに関心を抱き合い評価しあう場面の設定（相互評価）／「教えあい」や「学びあい」の場面や話し合い活動の場の設定（教えあい）／個々の児童生徒の発表や考え方、解き方などについて、ICTを活用して共有し、尊重され、認め合える場面を設定（ICT活用）／【自己決定の場の提供】自分独自の意見や仮説をまとめる機会の設定（自己意見）／対話や討議の場を設定し、自分の考えを主張したり他者の意見と比較させて自分の考えを深める機会の設定（討議の場）などを、教科授業のみならず、学級経営の重要な視点に置いて実践を重ねてきました。

◆変容と成果◆

生徒の学習態度や意欲の向上と同時に、指導者側の授業に対する見方・考え方が劇的に変化してきました。ICT活用による探究の方法を身に付けるだけでなく、生徒が課題を立て解決する授業づくりに関しての実践が進みました。共同編集やチャット、校外への発信などについて引き続いて研究していきます。

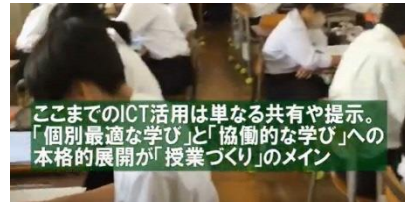


↑ 授業研究会だけでなく、学習支援加配が全授業者の実践を通信にして発信することにより、ICT活用だけでなく授業改善全体が急速に進みました。

↓ 春日井市の実践を参考に、単なる提示や意見収集に留まらず、互いのつまづきや思いも含めて共有しあい、習熟度に合わせた個別最適な学習へ移行させていく「協動的な学び」を重点研究(本校作成動画資料)



日頃の学習習慣の確立により、教えあひめあひの授業形態に円滑に移行



ここまでのICT活用は単なる共有や提示。「個別最適な学び」と「協動的な学び」への本格的展開が「授業づくり」のメイン



さらに、教える・教わるの関係性から協動的な練りあひのワーキンググループへ



タブレットは「自分に合った学びの方法」の、あくまで選択肢のひとつ



リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容①】「付箋アプリやシンキングツール等を活用した協同作業や回答共有など、普段使いの実践」

◆概要◆

これまで、黒板や班ごとのホワイトボードなどを駆使して取り組んできた「共有」のプロセス。場合によってはワークシートを使用し、教師がとりまとめて次時の授業に共有することもありました。ICTを活用することにより即時に意見や考えが共有され、再び個の思考へ転じ「深い学び」へと導くための効果的ツールとして、各教科で大変効果的です。

◆実践事例◆

シンキングツールやデジタルホワイトボードソフト、アンケート機能を用いて、即時に集団に対してフィードバックし、次の授業展開へ。これまで付箋や模造紙、班ごとのホワイトボードを用いることなく共有できるとともに、自分の考えや思いを抵抗なく伝えるメリットもあります。

◆生徒の変容と成果◆

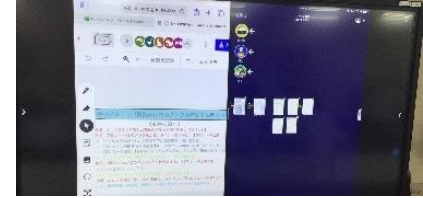
一部の生徒の発言のみで授業が進むこともなく、抵抗感を払拭できた生徒も数多くいます。これらを授業の特別な山場で使用するのではなく、「**普段使い**」として常用することができれば、実際の発言や発表と組み合わせ、多面的な授業展開が可能となります。



シンキングツールを用いた深い学び(国語)



↑↓複数画面・アプリの併用(演習とヒントの提示)



↑↓教科書や資料とアプリの併用



浮力の実験で気づいたこと		デジタルホワイトボードソフトの活用		
不思議に思ったこと		もっと調べたいこと		
深さが変わらない	軽くなった力が同じ	カヌーが沈まない理由は何?	浮力の大きさは何に関係するか	鉄を浮かせるにはどうしたらよいか
				そもそも浮かって何?

本時のあて：『相似の関係を使って線分の長さの求め方を、じっくり考えることができる。』

《 本時の流れ 》

準備①: Teams にログインし、「RS 3の1」の「数字」チャンネルに入る。QRコードからでもOK

準備②: 投稿内にあるリンクから、Teams にアクセスし、(本時の流れ)を2画面表示する。

導入①(導入): 授業プリントの1の読取文を読み、解けた人から1と2の解答を4に投稿する。

導入②(グループ): 教科書を見て、授業プリントの「三角形と比」「三角形と比の定理の逆」のポイントをうめる。

授業のポイントチェック前: 授業プリントの ①～③、に取り組み、早く終わった人は ④ にチャレンジ!

演習: リポート学習 78 79 にチャレンジ (ラスト10分になったら...) 資料箱の

まとめ: (確認テストが終わって〇付けた人から...)



←デジタルホワイトボードソフトは共有作業だけではなく、めあてを提示し、複数画面で常時提示することに活用も可能

グラフ化に加えて
解き方の重要ポイントを文字化して共有

つまづきや解決方法を「解放」しさらなる「協働的学び」へ発展

「できないのは自分だけじゃない!」みんなの苦手度を共有し、友だちのアドバイスを受けて自分に合った問題に挑戦!

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容③】「電子データやアプリケーションを活用した家庭学習の電子化の実践」

◆概要◆

本校は、平成31年度から市教育委員会指定のICT研究を2か年、令和3年度からは京都府教育委員会指定のCBT研究指定校を受けたこともあり、GIGAスクール構想以前から校区小中学校でタブレットの運用を開始していました。令和2年の緊急事態宣言の発出、そして1人1台タブレットが供与された際には、即時に校内環境を整え、マニュアルの策定、運用ルールの指導を終え運用を開始しました。

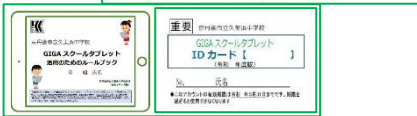
◆実践事例①◆

その際、いち早く操作スキルを向上させ、授業への本格導入を実現するために、『全校タブレット検定』を実施し、楽しみながら、教えあいながら操作や活用に慣れるプロセスを踏むことで、円滑かつ早期の本格導入が実現しました。

オンラインやデータのやり取りが可能なアプリと学習支援ソフトを併用してことにより、全校の生徒が、学校以外の場所でも自力で学習に取り組める、あるいは、いつでも学校と繋がる環境が整いました。



誰でも一人で解決できるマニュアルを配付



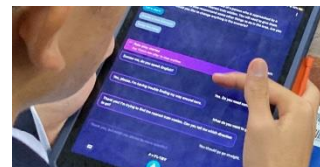
タブレットは市から貸与。使用のルールについて丁寧に説明・指導



宿題提出もタブレットから



日本で初めて本市全中学校に導入された英語力向上アプリ



アフターコロナでもオンライン配信は有効

◆実践事例②◆

コロナ禍、アフターコロナをとおして、家庭学習の電子化は飛躍的に進み、全校生徒が様々な教科や活動で活用しています。

- 課題をタブレットへ配信。提出もタブレットで。問題集や紙媒体などの課題と組み合わせ、家庭学習の質を向上しています。また、教務部が各教科の課題を把握し、バランスを取りながら運用しています。
- 京丹後市が独自に導入したAIを搭載した英語力向上アプリは、市内全中学校の全生徒のタブレットに搭載されています。中でも今年度から、中学2・3年生対象に「生成AI」を活用したモデルにバージョンアップされ、タブレットさえあればどこでも、AIがネイティブの先生のように発音の癖を特定し矯正する「個別指導」が可能になるだけでなく、自分のレベルに合わせて無限に生成AIとの英会話のレッスンを続けることができるようになりました。授業での活用はもちろんのこと、その活動を生かして、自宅で一人でも取り組める効果的な家庭学習のツールとなっています。
- その他、授業のオンライン放映やドリルソフトなど、「学びの場を保障」する様々な家庭学習ツールを駆使して、きめの細かい指導を展開しています。



協働的な活動はICT上でも活発に

◆生徒の変容と成果◆

未だ終息しないコロナ、インフルエンザ等の欠席者への学びの保障、また、本校の課題でもある長期欠席者への学習支援には欠かせないツールとなっています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容④】「ICTを活用した業務改善、生徒の安心安全を保障する取組」

◆概要◆

新型コロナウイルス感染症は、私たちに様々な試練を課し、どの学校においても危機に対応できる業務改善が喫緊の課題でありました。日々変化する状況の中で、急遽学校の方針を転換せざるを得ない日々…、健康観察や家庭連絡など…、まさに学校におけるICT導入があったからこそこれまで切り抜けてこれたのではないのでしょうか。

◆実践事例◆

本校では、当時から職員・保護者・生徒との緊急連絡体制を完備し、あらゆるケースにおいても対応できるマニュアルを完備するとともに、保護者欠席連絡アプリ、いじめやLGBTQに関することなどを含む、心因性の悩みも受け入れられる「心と身体のMorning check」の運用を開始。セーフティネットとしての機能ももたせました。

◆生徒の変容と成果◆

アフターコロナの全国的な課題は長期欠席生徒の増加。本校においても相変わらず最優先の課題となっています。子どもの悩みやSOSを多面的にキャッチして、未然防止、早期解決の手を打つことが求められています。相談窓口の複数常時開設、いじめアンケート、カウンセラー等の配置に併せて、ICTを駆使した様々な回線の開設こそ、**発達支持的生徒指導の出発点**だと思えます。

R5 久美浜中「心と身体のMorning check」

※画面をタップしてブラウザを開いてから始めてください。

(平日は8時30分まで、休日は9時までの入力完了をお願いします。)

1.学年 クラスを選択して下さい回答するのに必要です。

答えの選択

2.(〇年〇組)あなたの名前を選択してください。回答するのに必要です。

答えの選択

3.体調はどうですか？回答するのに必要です。

良い/普通
悪い

4.今の症状を選択してください(複数選択可)回答するのに必要です。

回答を入力してください

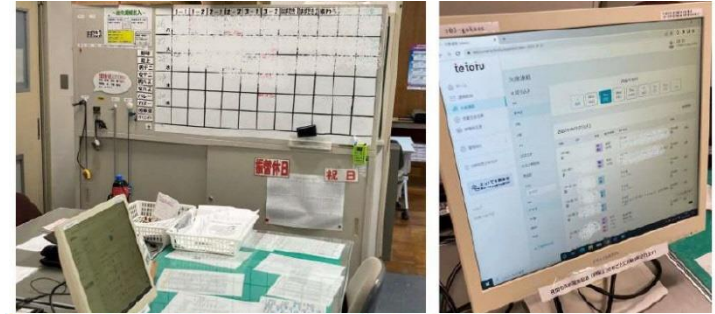
5.いじめについて心当たりや見たことがあれば教えてください。

6.困っていることや、悩んでいることはあれば記入して下さい。

7.面談(相談やカウンセリングなど)を受ける希望があれば記入して下さい。(例:友達関係、学習、性についての悩みなど)※担任の先生を窓口へ調整します。

アフターコロナでも継続している「心と身体のMorning check」 朝学活開始までに各自が入力する

欠席連絡アプリにモニタを増設して全職員が確認できる状況にして情報共有



教員側 (ブラウザの管理画面を使用)	保護者側 (専用アプリを登録して使用)
【機能1】欠席連絡と確認機能	
◆教員用タブレットで欠席連絡等を確認	◆「保護者」から朝の連絡・遅刻・早退連絡を行う(それ以外の機能はなし) ◆コロナ関連の連絡内容に留意
【機能2】学校からの一斉送信機能	
◆緊急連絡の一斉送信や学校発出文書等の添付ファイル(画像・PDF等3Mまで)	◆通知機能のONにすれば通知が可能 ただし、現時点では学校側での既読確認

【要保存】

新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業時における対応チャート

対応レベル	説明	電話連絡	生徒用タブレット	保護者用タブレット	PTA連絡	変換機能	HP掲載	保護者宛て文書	Team	Forum	Docu	その他	対応
レベル1	生徒への連絡(緊急時) 保護者への連絡・配付物(原則非印刷) 健康観察・経過報告(アンケート送達)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	対応 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +10 +11 +12 +13 +14 +15 +16 +17 +18 +19 +20 +21 +22 +23 +24 +25 +26 +27 +28 +29 +30 +31 +32 +33 +34 +35 +36 +37 +38 +39 +40 +41 +42 +43 +44 +45 +46 +47 +48 +49 +50 +51 +52 +53 +54 +55 +56 +57 +58 +59 +60 +61 +62 +63 +64 +65 +66 +67 +68 +69 +70 +71 +72 +73 +74 +75 +76 +77 +78 +79 +80 +81 +82 +83 +84 +85 +86 +87 +88 +89 +90 +91 +92 +93 +94 +95 +96 +97 +98 +99 +100
レベル2	健康観察・日報 生徒への配付物(課題等を含む)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	対応 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +10 +11 +12 +13 +14 +15 +16 +17 +18 +19 +20 +21 +22 +23 +24 +25 +26 +27 +28 +29 +30 +31 +32 +33 +34 +35 +36 +37 +38 +39 +40 +41 +42 +43 +44 +45 +46 +47 +48 +49 +50 +51 +52 +53 +54 +55 +56 +57 +58 +59 +60 +61 +62 +63 +64 +65 +66 +67 +68 +69 +70 +71 +72 +73 +74 +75 +76 +77 +78 +79 +80 +81 +82 +83 +84 +85 +86 +87 +88 +89 +90 +91 +92 +93 +94 +95 +96 +97 +98 +99 +100
レベル3	課題等の回収	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	対応 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +10 +11 +12 +13 +14 +15 +16 +17 +18 +19 +20 +21 +22 +23 +24 +25 +26 +27 +28 +29 +30 +31 +32 +33 +34 +35 +36 +37 +38 +39 +40 +41 +42 +43 +44 +45 +46 +47 +48 +49 +50 +51 +52 +53 +54 +55 +56 +57 +58 +59 +60 +61 +62 +63 +64 +65 +66 +67 +68 +69 +70 +71 +72 +73 +74 +75 +76 +77 +78 +79 +80 +81 +82 +83 +84 +85 +86 +87 +88 +89 +90 +91 +92 +93 +94 +95 +96 +97 +98 +99 +100
レベル4	オンラインによる再指示(授業形式)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	対応 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +10 +11 +12 +13 +14 +15 +16 +17 +18 +19 +20 +21 +22 +23 +24 +25 +26 +27 +28 +29 +30 +31 +32 +33 +34 +35 +36 +37 +38 +39 +40 +41 +42 +43 +44 +45 +46 +47 +48 +49 +50 +51 +52 +53 +54 +55 +56 +57 +58 +59 +60 +61 +62 +63 +64 +65 +66 +67 +68 +69 +70 +71 +72 +73 +74 +75 +76 +77 +78 +79 +80 +81 +82 +83 +84 +85 +86 +87 +88 +89 +90 +91 +92 +93 +94 +95 +96 +97 +98 +99 +100
その他		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	対応 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +10 +11 +12 +13 +14 +15 +16 +17 +18 +19 +20 +21 +22 +23 +24 +25 +26 +27 +28 +29 +30 +31 +32 +33 +34 +35 +36 +37 +38 +39 +40 +41 +42 +43 +44 +45 +46 +47 +48 +49 +50 +51 +52 +53 +54 +55 +56 +57 +58 +59 +60 +61 +62 +63 +64 +65 +66 +67 +68 +69 +70 +71 +72 +73 +74 +75 +76 +77 +78 +79 +80 +81 +82 +83 +84 +85 +86 +87 +88 +89 +90 +91 +92 +93 +94 +95 +96 +97 +98 +99 +100

発生フェーズにごとの教職員の対応と連絡方法について策定

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「関係機関や教育行政との共同研究推進の重要性」



「協働的な学び」を研究テーマに据えた実践授業を動画やオンデマンドとして記録・発信



GIGAスクール構想実施に先立って京丹後市教育委員会から依頼を受け、市内学校向けに作成した実践啓発動画



同じ指定校である校区小学校との共同研究を進め、保幼小と生活科とのつながり、生活科と「総合的な学習の時間」とのつながり、生活科と中学校の各教科とのつながりについて、ICT活用をとおした連続性・系統性のあるカリキュラムの構築を研究

◆概要◆

結論から先に触れると、行政支援なしで学校独自にDXを教育現場に取り入れることは不可能でありませぬ。それは予算的な面だけでなく、教育施策の方針を明確したうえで、現場に寄り添った支援がどれだけできるかが波及・推進の必須条件となります。とりわけ授業改善における研修等の支援、ミドルリーダーの育成、専門的なICTに係る支援体制は不可欠です。今回の研究では、本校の研究実践だけでなく、行政の支援の在り方についても意識して進めました。

◆成果◆

本校としての研究を単体で進めるのではなく、教育行政はもちろんのこと、地元研究組織、京都府の教育研修施設、他校種を含む近隣の学校とネットワークを構築し、京都府北部地域が一体となって協働し研究を進めていきました。各種研修会、相互参観、共同研究など、これらにより研究の幅は広がり、同時に研究成果の波及も進めることが可能となり、大きな効果を得ることができました。

◆学びと育ちの連続性の観点からみた「生活科」の目指すもの



本校の校内研修会には、客員アドバイザー、府指導主事、市教委指導主事、府研究機関指導主事兼研究主事、近隣高等学校教員、市内小中学校教員など多数の参加者を加えて研究協議を実施



市内教育研究会においても、学校におけるDXについての研究を開始し、京都府北部地域の強固な研究ネットワークを構築、共同研究を重ねている。



国や地方自治体を含む行政のスタンスは、教育におけるDX普及の大きなカギとなる。費用対効果検証に終始せず、子どもの望ましい育ちと学びに寄り添った現場との連携が不可欠

【取組内容⑤】「オンラインやオンデマンド等を活用した校区学校園所との連携」

◆概要◆

本校が所属する京都府北部の京丹後市では、保幼小中一貫教育構想のもと、市内6町がそれぞれ分離型一貫教育校として「学園」を形成し教育活動を進めています。当地域は人口の少ない広域にわたる地方部のため、同じ学園内においても対面の共同した活動が難しく、コロナ禍に関わらずICTの活用は不可欠のものとなっています。加えて言えば、DXの推進により学園のまとまりはより強固なものとなり、一方で学校園所の独自性や強みを生かした教育・保育の推進も充実していくという、予想を超えるメリットも明確になってきました。

◆実践事例◆

コロナ禍におけるオンライン対応はもちろんのこと、効率的な児童会・生徒会の合同会議の実施、学園内の園所学校教職員のためのオンライン研修会の実施などは、移動時間を削減したり、常時保育を続ける園所職員にも研修の機会を提供するなど、対面型にはない有効性も検証することができました。

また、オンデマンドや動画配信などは、教員や児童生徒のスキル向上により、対面では得られない情報量や表現力も魅力となり、教師のみならず、子ども同士のネットワークの構築と活性化も実現しています。



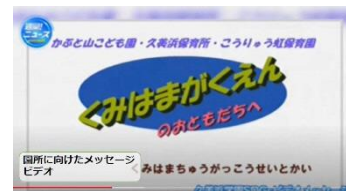
体育館と別会場を結んだコロナ禍の卒業証書授与式



久美浜学園児童会・生徒会合同定例会議(1中学校3小学校)



←
 コロナ禍における、校区内1中学校、3小学校、3園所合同のオンライン夏季全体研修会(双方向による研究協議・交流を含めた研修会を開催)



SDGsの取組の協力を園所に発信



中学校入学に当たっての質問に回答

【取組内容⑤】「総合的な学習の時間と教科の一体的展開と遠隔授業等による小中高の連携強化」



本校と地元高等学校との遠隔授業での、「総合的な学習の時間」と「総合的な探究の時間」の合同授業及び交流行事

◆概要◆

本校では、保幼小との連携はもちろんのこと、近隣の高等学校との連携も「一貫教育」として位置づけ、これまでよりさらに踏み込んだ連携事業を実施しています。「おらが町の高校」をより身近に感じ、成長した先輩の考えに触れることにより、本校生徒一人ひとりのキャリアを温かく育てています。貴重な地域資源としての地元高校とタッグを組んで、ICTを活用しリアルな体験とバーチャルな体験の両輪で強力に進めています。

◆実践事例◆

- ・『自己の在り方生き方を見つめ、明日からのキャリアを切り拓こう!』「総合的な学習の時間（中学校）」と「総合的な探究の時間（高等学校）」の遠隔による合同特別授業
 - ⇒ICT環境を活用し、中学3年生が、高等学校における「総合的な探究の時間」の学習内容を知り、次なる目標をもって日頃の学習を進めていくための動機づけの機会と捉えて開催（中学3年生対象）
- ・『栽培から食育へ』農業専門の高校教員による遠隔特別講座
 - ⇒中学校技術科における「栽培領域」への関心を高めつつ、久美浜中学校が展開しているSDGsの取組や食育に係る取組を、より深化していくための機会として開催（中学生全員対象）

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「ICTを駆使した生徒の望ましいキャリア形成に資する横断的取組の展開」

◆実践事例◆

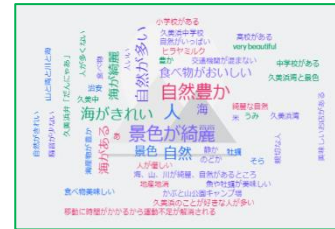
本校では、学校教育目標を具現化させる指導の重点として、「生徒のキャリア形成を目指し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ横断的取組の展開各領域・教科の取組を、キャリア形成の視点で一体的に展開し、キャリア教育に掲げられている目標を目指しながら、ふるさとや自分を見つめ、将来への展望をもてる『生き方を学ぶ教育』を推進する。」としています。ICT・DXの効果的・積極的活動と、教科授業を含めて、地域人材を計画的・系統的に活用し、直接体験を大切にした教育を一体的に展開していきます。

年間通した生徒のキャリア形成に資する計画の大きな節目として、『先輩たちの生き方・考え方に学ぶ』『くみちゅう キャリアフェスティバル 2023』を開催し、様々な世代の思いを出し合うパネルディスカッションの場に、高校生にも参加を要請し、ふるさとや仲間と繋がることの大切さ、誰もがウェルビーイングを追求できる世の中づくりについて考える機会としました。

本事業にも本校のDXのノウハウを駆使し、関東在住の本校卒業生である社会人とオンラインで結び、パネルディスカッションに参加していただいたり、参加者全員が持っているタブレットからスクリーンの二次元コードを読み取り、瞬時に参加者の意見を集約し、ワードクラウドとして提示された意見をさらに深めていくなど、全員参加型のセッションとなり、大成功で終わることができました。

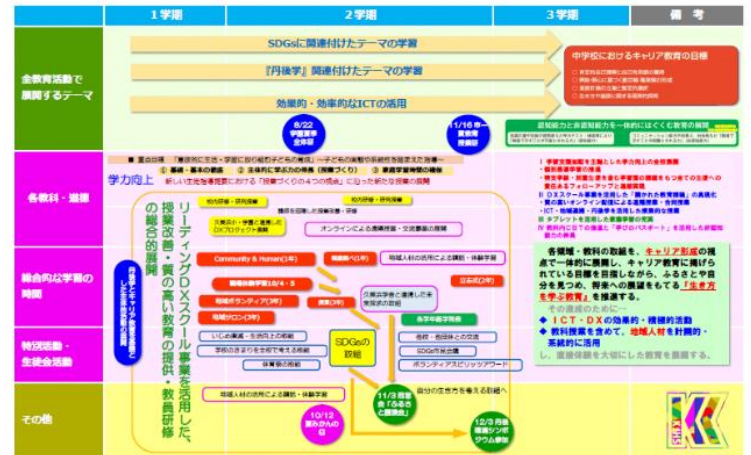
◆生徒の変容と成果◆

全校生徒がタブレットを普段使いにしている本校としては日常の風景でしたが、リアルに行われている討論会とICTを組み合わせた企画・進行は新鮮に感じたようでした。ICT機器を駆使しつつ、親しみのある高校生の生の話をストレートに受け止められたことは、今後の彼らのキャリア形成にとって非常にプラスになると感じます。



「くみちゅう キャリアフェスティバル 2023」

令和5年度 生徒のキャリア形成を目指し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ横断的取組の展開 京丹後市立久美浜中学校



久美浜中学校のキャリア形成に係る横断的取組の系統図

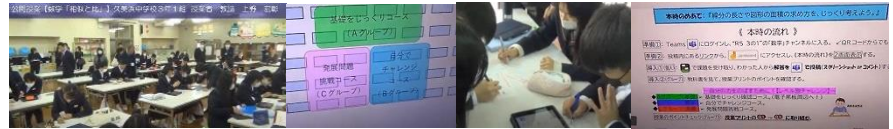
【取組内容⑤】「実践研究の内容と成果の波及・発信」

◆ 成果発表 ◆

11月16日(木)には、京丹後市立久美浜小学校を会場に、京丹後市教育委員会主催の「令和5年度 京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会」が開催されました。当日は、一貫教育の趣旨に沿った発達段階ごとの研究授業が公開され、本校は3年生数学のICT機器を活用した「協働的な学び」をテーマとした授業を公開しました。

また、12月8日(金)には、京丹後市内や京都府内の研究会と共催で、「ICT・DX研究推進研修会」を開催しました。京都府全域から校種を越えて教員が参加したとともに、京都府教育委員会、京都府丹後教育局、京都府デジタル学習支援センター、京都府総合教育センターの全面協力により、講義や研究協議、指導助言など密度の濃い研修会となり、実に大きな学びの機会となりました。

本校では、今年度の実践研究において、単純なICT機器の活用について研究を進めるのではなく、新たな授業づくりの取組を大切にすることにより、学力向上に係る数多くの成果を得ることができました。



11/16の授業研究会では教育関係者に3年生数学の授業を公開

◆ 発信と新たな指標の設定 ◆

今回の研究をきっかけに、多くの研修会や研究授業を開催し、学校におけるデジタル改革やICT活用についての数々の試行や検証を重ね、本校における新たな学びを模索する好機になったとともに、近隣や広域での学びのネットワークを構築し互いに高め合うことができました。

これまでの研究の概要や成果は、本校のホームページに詳しく掲載することにより、さらなる成果の広がりを期待しています。

今後はさらに、「主体的・対話的で深い学び」と、より効果的・効率的な学校教育活動に資する研究開発を続けながら、明るい未来を担う子どもたちを育てていきます。



ICT・DX研究推進研修会(R5.12/8)の開催と、オンデマンド配信による成果波及



<https://www.kyoto-be.ne.jp/kumihama-jhs/cms/>